

【キーワード】

〔施設種別〕 ☐ 高齢者施設 ☐ 障がい者施設 ☐ 子ども施設 ☐ 住宅
 〔運営主体〕 ☐ 市区町村 ☒ 法人 ☐ NPO ☐ 個人 〔補助金〕 ☐ 内閣府 ☐ 国土交通省 ☐ 厚生労働省
 〔建物形式〕 ☒ 1 棟単体型 ☐ 複数棟集合型 ☐ 団地型 〔建物状況〕 ☒ 新築 ☐ 増築 ☐ 改修 ☐ 一部改修 ☐ 既存
 〔対象者〕 ☐ 高齢者 ☐ 障がい者 ☐ 子ども ☐ ファミリー ☒ 多世代



写真 1. 外観写真（施設 HP より）

埼玉県東部医療圏の3病院が機能を分担・特化し、互いに補完し合う体制構築する“トライアングル総合医療圏構想”の1病院として新築された病院である。構想上で専門性が高い病院を求められたため新しく整備する対象として選ばれた。また患者の自己治癒力をあげるため居やすい内装と安全かつ効率的な診療を受けることのできる動線計画が施されている。

■施設情報

所在地：埼玉県草加市谷塚 1-11-18

運営主体：医療法人社団協友会

設計：大成建設株式会社一級建築士事務所

施設種別：病院

診療科目：内科 消化器内科 循環器内科
 呼吸器内科 糖尿病内科 外科
 内視鏡外科 婦人科 泌尿器科
 女性泌尿器科 整形外科 小児科
 皮膚科 麻酔科 リハビリテーション科

敷地面積：4,818.93㎡

建築面積：2,097.10㎡

延床面積：6,115.23㎡

構造・階数：鉄筋コンクリート造 地上4階

病床数：80 床

運営開始：2012 年 12 月（病床移転，特化により従来の病床構成から療養型病床群を他に移し，80 床に減少）

見学日：2014 年 11 月 28 日

ご案内いただいた方：山野泰隆氏（医療法人福寿会メディカルトピア草加病院総務人事課課長），岡本憲文氏（大成建設，設計者）

見学者：山田あすか

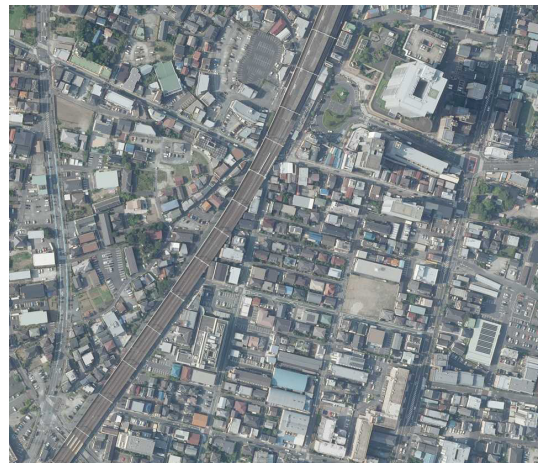


図 1. 周辺状況（国土地理院より引用）

東武スカイツリーライン谷塚駅谷東口から，北千住方面へ徒歩約2分に位置する。38 台分の駐車場が備え付けられているので自家用車での来院も可能。



写真 2. 1 階部外来診療受付

床・柱等の化粧材に木を使用することで病院ではなくホテルのような雰囲気を作り出している。



写真3. 外来診療受付と待合

壁面に間接照明が埋め込まれ、高級感と落ち着きのある雰囲気を演出している。

■沿革，運営概要

メディカルトピア草加病院は、1979年1月、埼玉草加病院として開院した。2008年4月には上尾中央医科グループの一員となり、埼玉の南部地域において地域診療を担うことを目指している。

なお、2008年7月、同グループは、埼玉県東部医療圏の3病院（八潮中央病院・埼玉回生病院との連携）に対して、各施設が機能を分担・特化し、互いに補完し合う体制構築を目的に“トライアングル総合医療圏構想（SKYプロジェクト）”を始めた。急性期医療の提供可能施設であり、専門性の高い病院を構想の果たすべき機能と設定し、施設・設備、診療体系を新しく整えるため、新病院建築として2012年2月、メディカルトピア草加病院が開院された。

■施設概要

1) 全体構成とデザインコンセプト

1階部は外来診療、2階部は診療部門と渡り廊下でつながる事務等の管理部門、3、4階は病棟部門という構成となっている。全体的な内装は滞在自体を楽しめるような病院となることを目指すため、ホテルフロントのようなスタッフステーション、患者が落ち着く照明で照らされたデイルームが施されている。気持ちを前向きにし、リラックスできる環境を整えることで患者の自己治癒力を高める目的がある。設計コンセプトとして、患者とスタッフ両者に快適な院内環境の実現が挙げられている。

2) 手術部門と手術室の設計

同病院は特徴ある、専門性の高い病院を実現するため、低侵襲外科治療の積極導入と内視鏡手術を専門とする医師たちを多く迎えている。このため、建築設計としても、これらの特徴ある医療の実現に応える建築設計が行われている。

数多くの手術件数を支えるために動線設計の効率化が検討され、術前患者のウォークイン・術後患者のベッドアウトの動線が交錯しない設定がなされている（図2）。

また、一般的な手術室はスタッフや医療機器等の発熱

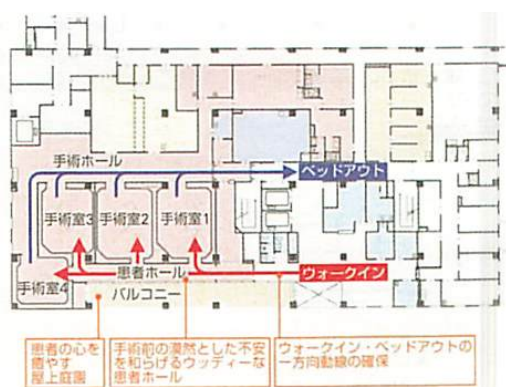


図2. 2階部入退室の動線（新医療2013年2月号より引用）

2階手術室は内視鏡手術に適するため、ウォークインとベッドアウトの入退室が交差しない設計がなされている。

対応として、1年を通して冷房を行っている。そのため冷気が内視鏡を冷やし、結露が視野を邪魔する原因となっていた。その改善策として、内視鏡手術室では室内の陽圧を確保しながら患者腹部周辺温度を28度以上に保ちつつ術者エリアは24度以下の室温に保つ空調システムを導入した(図3)。手術室内の壁上部には自然に風景・草木のプリントが施され、環境音楽が流れるなど安らいだ雰囲気となる環境を目指している。また、手術室へのアプローチに屋上庭園(ウォークイン動線の進行方向左手にあたるバルコニー)が配置され、外の空間が見えることで術前の患者の不安を和らげる工夫がされている。

3) 受診動線の設計

外来患者動線では受付→診察→検査(生理検・内視鏡・放射線)→会計と一筆書きの動線を確保することで患者が迷うことなく、効率良く診療が受けられるよう設計された(図4)。更に会計を済ませた出口左手には、広いラウンジやカフェ・売店等の診療後にゆったりと休まる場が設けられている。

機器更新の頻度の高い内視鏡、放射線部門が1階にあり、これらが外周に沿って配置されていることで、将来的な機器更新や大規模なメンテナンスの際にも対応しやすい。なお、病床構成の整理により当該病院としては病床数が149床から80床へスケールダウンされているが、建物の延べ床面積は4080㎡から6115㎡へと約2.8倍に

参考文献

- 1) メディカルトピア草加病院 HP, <<http://www.mtopia.jp/>>, 2020年6月10日参照
- 2) 新医療 2013年2月号 2020年6月10日参照
- 3) 月刊近代建築 2013年11月号 2020年6月10日参照

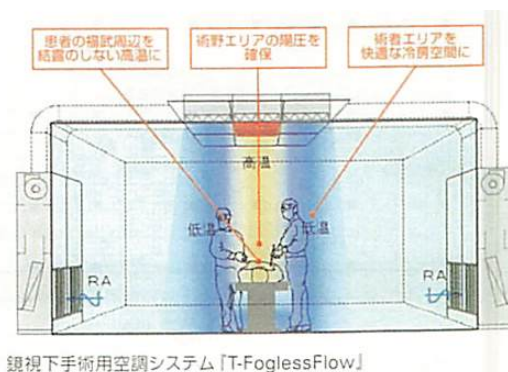


図3. 2階手術室空調システム(新医療 2013年2月号より引用)

手術中は術者エリアは低温に、術野エリアは陽圧を確保し患者腹部周辺温度を28度以上に保つ空調システムが導入されている。

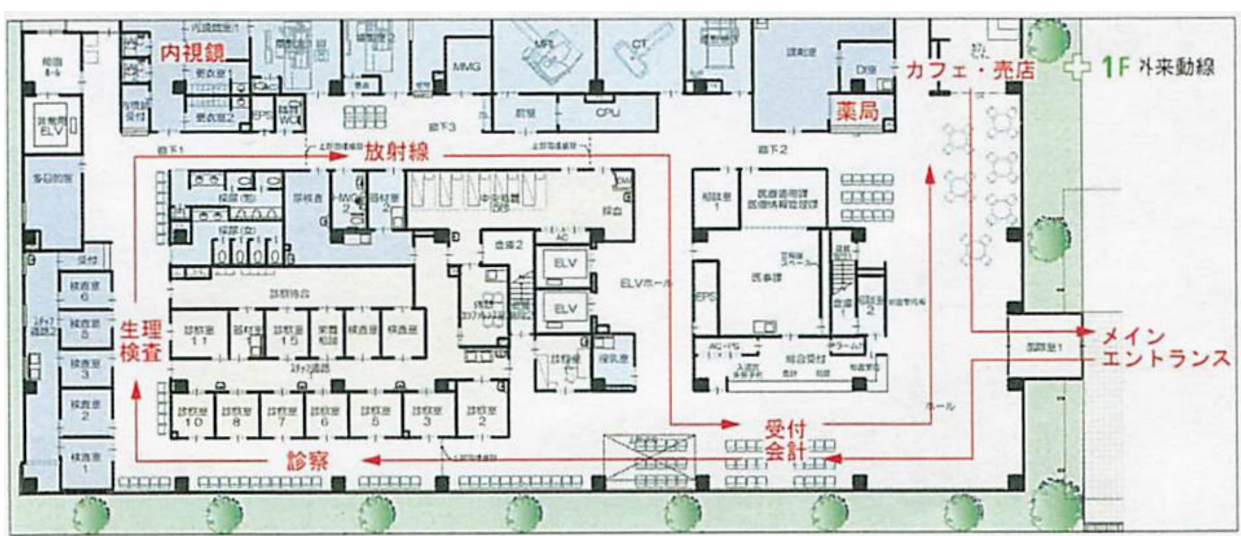


図4. 1階部診察・検査部の効率的な患者の動線(新医療 2013年2月号より引用)

外来患者動線では受付→診察→検査(生理検・内視鏡・放射線)→会計と一筆書きの動線を確保することで、わかりやすく、効率良く診療が受けられる動線が設計されている。



写真4-7. ワンウェイの受診動線

診察、生理検査、放射線、会計・受付への動線が一筆書きになっている。このルート上に中待ちが発生することになるため、アルコーブとベンチやソファなどの滞在空間が設けられている。また、床仕上げを張り替えることでメリハリを出している。

拡大している（1床あたりの床面積が27.4㎡から76.4㎡）。つまり病床あたりの診療部門面積の比率は増加しており、これは内視鏡手術等の低侵襲性医療の積極的導入によって入院期間が短縮すると共に外来診療重視への対応が行われたためである。

4) 病室と病棟の計画

病床あたり面積の余裕は、病室を含めた院内各所で患者のプライバシーに配慮したレイアウトを施すことにもつながっている。個室病床率を高め、余裕のある面積を活かして多床室でも各ベッドに窓があるよう病室計画がなされている。

病棟全体、病室共に落ち着いた、ホテルのような雰囲気を目指され、照明、採光、仕上げ、色彩、家具等がトータルにコーディネートされている。病棟で必要となるストレッチャーや車いすなどが無秩序に置かれ雑然とした印象になることがないように、廊下の窓台と合わせて設計された、収納しやすく取り出しやすいアルコーブが設けられている。そのため、窓と窓台の位置が高くなるが、それも落ち着いた印象に寄与している。

（作成：東京電機大学 榎村賢 2020.0615,

校正・加筆：東京電機大学 山田あすか 2020.1113)



写真 8-11. ワンウェイの受診動線

検査部門を経て，診察・検査を終えたのちに立ち寄れるラウンジのようなカフェ。ワンウェイで計画された診察・検査の動線の最後に当たる。



写真 12. 病棟スタッフステーション

スタッフステーションは木の化粧材を活用し，病院ではなくホテルのような雰囲気を作り出している。



写真 13. 病棟のデイルーム

病室が外周を囲む配置であり，複廊下型で計画された病棟のデイルームは，光庭に面して設けられている。設えを各階で変えており，それぞれ異なる家具が配置されている。

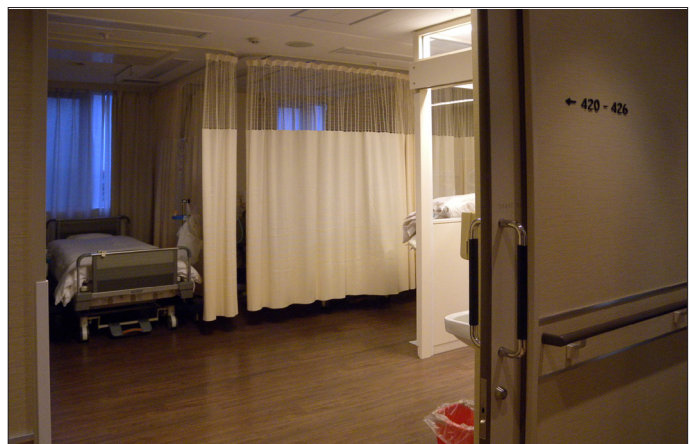


写真 14. 多床室

窓際にベッドが置かれている。室全体に余裕がある。



写真 15. 個室病室

落ち着いた、リッチな雰囲気になるよう仕上げ、照明、色彩が計画されている。



写真 16. アウトレット

医療用アウトレットは、スライドドアで隠すことができるようになっている。



写真 17. 病棟スタッフステーション

スタッフステーションは木の化粧材を活用し、病院ではなくホテルのような雰囲気を作り出している。



写真 18. 光庭

複廊下型病棟となるので、中央部への採光のために光庭がとられている。3階が中庭部分となる。



写真 19. 病棟デイルーム

スタッフステーションと同じく、単なる滞在の場所ではなくリラックスができる場である。光庭に面する。



写真 20-21. 廊下のストレッチャー納め

